

# ソーシャル PM ニュース 2015 年 10 月

PMI 日本支部 ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

ソーシャル・プロジェクト（社会課題の解決を目的とするプロジェクト）のマネジメントについて、研究活動の状況、イベント、人材募集などについてお伝えします。

## 2015 年 10 月 もくじ

- A. 研究会活動の状況
  - A1 ソーシャル PM 実践ワークショップの開催案内
  - A2 ソーシャル PM 一問一答
- B. ソーシャル PM コミュニティ&イベント
  - B1 「ITx 災害会議（11 月 21 日）」のプログラム概要
  - B2 「ITx 災害」コミュニティの紹介
- C. プロマネ募集
  - C1 「WORK FOR 東北」プロマネ募集
  - C2 「サービスグラント」プロマネ募集

=====

## A. 研究会活動の状況

-----

### A1 ソーシャル PM 実践ワークショップの開催案内（小谷野正博）

PMI 日本支部ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会では、12 月 5 日（土）に PMI 日本支部にて下記のワークショップを開催いたします。

人口減少、高齢化、中心市街地の衰退、生活習慣病、未成年者の自殺……将来世界各国が直面するであろう課題に、日本は今まさに直面しています。ソーシャル課題先進国である私たち日本には、この課題を解決し、明るい未来を築き、「ソーシャル課題先進国」から「ソーシャル課題解決先進国」となり、世界の最先端にたつことが期待されています。そんな日本、地域が抱える複雑な課題を解決するマネジメント手法を学んでみませんか。今回はその第一回です。

## ソーシャル PM 実践ワークショップのお知らせ

### 『第1回研修テーマ:ソーシャル・デザイン思考実践』

～ソーシャル課題を未来に向けて解決する手法～

#### ソーシャル PM 実践ワークショップ 開催の背景

東日本大震災から3年、PMI日本支部では「災害復興支援プログラム」を立ち上げ、プロジェクトマネジメントの専門性を活かしたプロフェッショナルなボランティアとして復興支援活動を行ってきました。その中でいくつかの復興プロジェクトには直接参加してマネジメントの支援を行いました。活動主体やテーマが異なるプロジェクトを意図的に選び、パイロット・プロジェクトとして行ったものですが、成果を十分に挙げられたものもあり、そうでないケースもありました。

そこで得られた教訓は復興支援に限らず、社会課題を解決する活動（これを、「ソーシャル・プロジェクト」と呼びます）に共通して活かせるものであり、「新しいプロジェクトマネジメントの手法」の開発が望まれていると考え、「ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会」を創設しました。

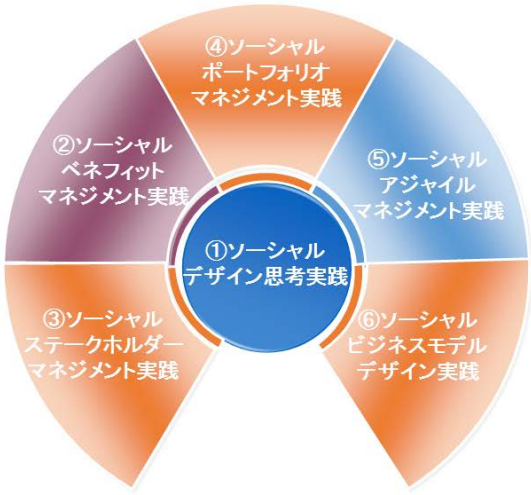
復興支援パイロット・プロジェクトの教訓から、ソーシャル・プロジェクトには以下のような困難があることがわかりました。

- ❖ 多様なニーズがあって、焦点を絞れず議論が堂々巡りして前に進まない。
- ❖ 目標やスコープがあいまいで、実行計画がまとまらず、走りだせない。
- ❖ 思いのままに進められるが、成果を出せない。
- ❖ 制度的な規制が障害となって、計画変更を余儀なくされる。
- ❖ マネジメント体制が弱く進捗が把握できない。

既存の手法をそのまま適用しても、なかなか定着しません。

ソーシャル PM 研究会では、これまでの研究活動を通して、社会課題解決に有効であると思われるソーシャル・プロジェクトマネジメント手法を適用してきました。そして、これまでの、マネジメント手法適用の中から得られた教訓を基に、以下の6つの研修コースを“学びの場”として開発、体系化しました。

## ソーシャルPM研修体系



ソーシャル PM 研修体系（開催予定 6 コース）

### 『ソーシャル・デザイン思考実践』コース の学習目標

今般、その初回研修として、「ソーシャル・デザイン思考実践」を開催します。

- ソーシャル・デザイン思考は、当研究会では、「現状の社会の状況や人々の行動思考を観察/体験して問題の本質を洞察し、ソーシャル課題を再定義して仮説を作り、プロトタイプングによる試行錯誤を繰り返してソーシャル課題解決に導くアプローチである」と定義しています。皆さんと、共に、ソーシャル課題の解決に、木を見て、森も見するためのフレームワークが果たせる役割・意義について、議論していきたいと思っています。

詳細内容とお申し込みは、次のサイトを参照してください。  
[https://www.PMi-japan.org/event/open\\_seminar/other/2015\\_10\\_15\\_sPM\\_seminar\\_1-6.php](https://www.PMi-japan.org/event/open_seminar/other/2015_10_15_sPM_seminar_1-6.php)

-----  
**A2 ソーシャル PM 一問一答**

ソーシャル PM という新しい取り組みはまだ概念も十分に確定していないので、いろいろな質問をいただきます。その中で特に広くみなさまにご理解いただきたいテーマについて連載で解説していきます。

内容についてみなさまのご意見もお聞かせください。

(Q7) デザイン思考のアプローチとプロジェクトマネジメントがどのようにつながるのですか？

(A7) ソーシャル PM では、ソーシャル活動の効果的な推進をサポートするために、デザイン思考プロセスの随所でプロジェクトマネジメントの手法をツールとして活用します。

6月号でデザイン思考とは何かという説明をしました。それによれば、デザイン思考のアプローチは次の4つのステージになります。

- ステージⅠ（調査）： 現状の社会の状況や人々の行動思考を観察/体験して、
- ステージⅡ（分析）： 問題の本質を洞察し、
- ステージⅢ（統合）： 課題を再定義して解決策の仮説を作り、
- ステージⅣ（実現）： プロトタイピングによる試行錯誤を繰り返して、  
ソーシャル課題を解決に導きます。

これをマネジメントしていく上で、さまざまなプロジェクトマネジメントの手法が使われますが、その代表的なケースを挙げると次のようになります。

・調査ステージでは、観察/体験から得られた人々の状況とその変化をステークホルダー・マネジメントで受けとめながら、関係者の期待やニーズを理解して解決への道筋を検討していきます。

・分析ステージでは、問題の本質を把握して、それを解決するための目標を設定することがベネフィット・マネジメントの狙いです。

・統合ステージでは、多くの場合、解決策の仮説が複数考えられます。そのとき各ステークホルダーのいろいろなベネフィットを総合的に評価して、優先順位を協議するためにポートフォリオ・マネジメントが役に立ちます。

・実現ステージでは、複数の仮説を順次試行していくために、アジャイル・マネジメントのアプローチをとることが有効です。

・そうして解決の糸口がつかめれば、定常的な活動として継続するためにビジネスモデルを確立します。

上記でアンダーラインを付した語がプロジェクトマネジメントの手法と事業戦略手法ですが、ここでは一つのケースを示したもので、それぞれの手法は特定のステージで固定的に使われるものではありません。デザイン思考アプローチ全般にわたって継続的に活用していくことが望まれます。

これらの手法をソーシャル活動に応用する実践ワークショップが計画されています。「A1 ソーシャル PM 実践ワークショップの開催案内」をご覧ください。

また上に例示した手法だけでなく、それに関連してソーシャル活動を支える計画や進捗のマネジメント手法が利用できます。それらについて詳細は別の機会にご説明します。

---

## B. ソーシャルPMコミュニティ&イベント

---

### B1 「ITx 災害」会議（11月21日）のプログラム概要（高橋正憲）

前号でお知らせしましたように、「ITx 災害会議2015」が開催されます。プログラムの内容が決まりましたので下記に概要をご案内します。

イベント全体の詳細については次のウェブサイトをご覧ください。

<http://2015.itxsaigai.org/>

また、この会議の実施母体の「ITx 災害コミュニティ」については、この記事の後の「B2 ITx 災害コミュニティの紹介」で説明していますので、合わせてお読みください。

#### ◎イベント概要

- 日時： 2015年11月21日（土）10:30～17:30
- 会場： [情報システム研究機構・統計数理研究所／東京都立川市](#)
- 主催： 「ITx災害」会議実行委員会
- 共催： 新領域融合プロジェクト システムズ・レジリエンス
- 定員： 120名（申込先着順、定員に達し次第締め切ります）
- プログラム
  - 09:30 開場
  - 09:40～10:00 初めての参加者のためのオリエンテーション
  - 10:00～11:30 「気持ちをつなげる」（全体セッション）
    - ◇ 【やってみる】隣の人と話そう
    - ◇ 【話を聞く】「ITx災害」会議のこれまで
    - ◇ 【話を聞く】災害支援の過去・現在・未来
  - 11:30～13:00 「ひろくつながる」
    - ◇ 【やってみる】炊き出し訓練（芋煮の作成実習と試食）
  - 13:00～16:20 「わいわいつながる」（個別セッション）
    - ◇ 【語り合う】テーマごとの部屋に分かれてセミナーやワークショップ（1コマ60分×3回、内容は近日公開予定）
  - 16:30～17:30 「次につなげる」

☆ 【分かち合う】この日の取り組みを共有し、どのように「次につながる」かを確認

➤ 18:00～20:00 「もっとつながる」

☆ 【もっと語る】懇親会（希望者のみ）

- 参加費：2,000 円／人 学生 1,000 円／人（イベント運営費・炊き出し訓練費用として承ります）
- 懇親会費（参加者のみ）：3,500 円／人 学生 3,000 円／人（会議終了後に希望者のみで開催）

参加申し込みはこちらです。

<http://itxsaigai2015.peatix.com/>

ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会のメンバーも運営スタッフとして活動しているほか、13:00～16:20「わいわいつながる」の個別セッションでは、約 10 件の個別テーマについて議論が行われる中で、「ソーシャル・プロジェクトマネジメントの必要性」と題して、当研究会の中谷英雄さんが講演します。

ぜひ多くの方々のご参加をお待ちしています。

---

## B2 「ITx 災害」コミュニティの紹介（石塚幸夫）

「IT×災害コミュニティ」は「防災・減災および災害からの復興に IT を活かして持続的に関わってゆこう」という志を持つ人たちが組織や立場を超えて集まり、知恵や情報を共有するコミュニティ」です(Facebook グループの説明から)。

2011 年 3 月の東日本大震災の復興支援に関わった IT 技術者、災害医療に携わった方々などが意見交換する場として、2013 年 10 月に“つながる”をテーマに「IT×災害会議」が都内で開催されました。

その参加者が中心になって、Facebook の公開グループ「IT×災害コミュニティ」を開設しました。IT 技術者、災害医療に限らず、復興支援に携わったり、関心を持っている、NPO、自治体、企業、大学の関係者、大学生まで、幅広いバックグラウンドの方々 856 人が参加しています(2015 年 10 月 16 日時点)。

コミュニティでは、IT と災害支援、減災に関わるニュース、活動状況、災害情報、セミナーやイベント情報などが連携され、さまざまなテーマについて自由闊達な意見交換がされています。

「減災インフォ(ホームページ)」、「2015/9/10 北関東・東北 豪雨災害(Facebook 公開グループ)」など、特定のテーマに特化したサブコミュニティが作られたり、減災に役立つアイデアやアプリケーション開発をするための「減災ハッカソン」が誕生したり、「IT×災害コミュニティ」を軸にして、さらに活動は広がっています。

災害発生時に迅速に被災地に赴き、情報の収集・活用・発信に関わる支援活動を行う「情報支援レスキュー隊 (IT DART : IT Disaster Assistance and Response Team)」は、「IT×災害コミュニティ」の有志を中心に発足し、今年8月8日に一般社団法人としてスタートしました。

設立総会には、IT DART の創立メンバーのほか、被災された自治体の職員、NPO、社会問題の研究者、IT、医療関連従事者など50名以上が参加され、設立の趣旨、活動方針の説明後、ゲストスピーチなどが実施されました。設立総会後のワークショップでは、「自治体との連携」、「活動に必要なITシステム」、「被災地で効果的かつ安全に活動するための対策」、「発災時の初動体制とその準備」といった4つのテーマで活発な意見が交わされました。

9月の茨城県常総市豪雨災害の支援がIT DART 法人化後最初の活動として実践されています。

#### ■関連リンク情報

<IT×災害コミュニティ>

マニフェスト:

[https://docs.google.com/document/d/18kW0ppzwxvJhahL2Z\\_PqknUmQYreF9yWoROHU1TZ4DE/pub](https://docs.google.com/document/d/18kW0ppzwxvJhahL2Z_PqknUmQYreF9yWoROHU1TZ4DE/pub)

ホームページ: <http://www.itxsaigai.org/>

Twitter: <https://twitter.com/itxsaigai>

Facebook: <http://facebook.com/groups/it.saigai/>

<減災インフォ>

<http://www.gensaiinfo.com/>

<情報支援レスキュー隊 (IT DART) >

<http://itdart.org/> 正会員、賛助会員、寄付者、隊員を募集中

---

---

## C. 連携団体情報・プロジェクト・マネジャー募集

ソーシャル PM 研究会が連携している団体からのプロマネ募集です。

---

### C1 日本財団「WORK FOR 東北」(復興庁協働事業) プロマネ募集

#### ◆お勧めの案件

[岩手県釜石市] 釜石リージョナルコーディネーター協議会 (釜援隊)

インフラ整備が進む釜石において、今後求められるのは、安心して豊かに暮らすことが出来るまちづくりです。

コミュニティの形成や販路の拡大等、セクターを超えた主体的なまちづくりを進めるため、コミュニティ領域における地域コーディネーターおよび地域資源を活かした工業・商業の活性化コーディネーターを募集します。

<http://www.work-for-tohoku.org/list/140>

[岩手県岩泉町] 地域振興施設 (地場の水産物を活用した加工・直販・食堂) の企画運営  
震災で被害を受けた岩泉町の小本地区では、震災以前から秋鮭を中心とした水産物が宮古などの域外市場で流通してしまうという課題がありました。

地区では 2016 年度を目処に水産物の加工・直販・食堂を担う地域振興施設を整備し、漁業者一体となって地場の水産物の地産地消・流通量の拡大を図り、持続可能な地域づくりを実現することとしています。

この施設の立ち上げに当たり、事業計画の立案、商品開発、運営企画を行う人材を募集しています。

<http://www.work-for-tohoku.org/list/97>

[宮城県石巻市] 石巻市復興事業部 (土木工事施工管理、用地買収)

石巻市では、震災復興基本計画に基づき震災後 10 年間 (2020 年度) で復興を成し遂げるべく事業を進めていますが、マンパワー不足等により事業が遅れている状況です。

住宅地・道路・公共施設の整備、集団移転事業の促進などに伴い、土木工事の施工管理・工事間マネジメント人材および用地買収ができる人材が求められています。

<http://www.work-for-tohoku.org/list/143>

[宮城県石巻市] 大規模園芸施設 (栽培品目: トマト、パプリカ) の経営に係るマネジャー (石巻市 6 次産業化・地産地消推進センター)

津波により甚大な被害を受けた北上地区の方々新たに設立した農業法人が運営する大規模園芸施設ですが、経営・マーケティング・セールスの経験者が不足しています。販路



開拓や運営体制の早期確立が求められるため、同業務の経験を有するマネージャー人材を募集します。

<http://www.work-for-tohoku.org/list/144>

その他、全体の募集案件は以下よりご覧いただけます。

◆ 「WORK FOR 東北」 事業について

<http://www.work-for-tohoku.org/>

「WORK FOR 東北」では、東日本大震災で被災した自治体などの人材ニーズと、復興の現場で働きたいという個人、企業の方をお繋ぎするサポートを実施しております。復興に携わる業務にご関心のある方、ぜひ一度ご検討頂ければ幸いです。

お問合せ・お申し込みは以下まで

日本財団「WORK FOR 東北」事務局

東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 5F

TEL : 03-6229-5229 (9:00~18:00/土日祝除く)

E-Mail : [jinzai-pf@ps.nippon-foundation.or.jp](mailto:jinzai-pf@ps.nippon-foundation.or.jp)

-----  
**C2 「サービスグラント」プロマネ募集**

■ サービスグラントのご紹介

NPO 法人サービスグラントです。『ビジネススキルや専門知識を活かしたボランティア活動』である“プロボノ”のコーディネートを通して、NPO の支援を行っています。

11 月に今年度最後のプロボノプロジェクト立ち上げを迎えるにあたり、プロジェクトマネージャーとしてプロジェクトにご参加いただける方を募集中です。ご参加方法について以下ご案内いたしますので、是非ともご検討くださいませ。

■ サービスグラントにご参加いただくには？

1. スキル登録

ご参加への第一歩として、皆さまのビジネススキルや専門知識について『スキル登録』をお願いしています。ご参加までの流れ、並びにスキル登録フォームは以下ページよりご確認ください。

<http://www.servicegrant.or.jp/skill/flow.php>

## 2. プロボノワーカー説明会ご参加

実際のプロジェクトにご参加いただくための必須条件として、皆様には「説明会」へのご参加をお願いしています。説明会では、より詳しくサービスグラントの考え方、これまでの実績、プロジェクトの進め方、参加にあたっての留意点等をご案内させていただいており、お時間としては1時間～1時間半程度です。

《10月プロボノワーカー説明会スケジュール》

10月31日（土） 10:30-12:00

▽ 説明会について詳しくは・・・

<https://www.servicegrant.or.jp/skill/orientation.php>

※ご参加までの推奨スケジュール（若干変動の可能性有）

- ・ 10月中：スキル登録、プロボノワーカー説明会ご参加
- ・ 11月上旬～11月下旬：プロジェクト立候補募集、チーム編成
- ・ 11月下旬～12月上旬：プロジェクトキックオフ

### 【お問い合わせ先】

NPO 法人サービスグラント（担当：岩渕）

03-6419-402

[info@servicegrant.or.jp](mailto:info@servicegrant.or.jp)

=====

## 編集後記

ただいまソーシャル PM 研究会では、次の二つの大きなテーマに取り組んでいます。

- ① ソーシャル PM 実践ワークショップの開発
- ② ITx 災害会議の準備

このうち、①については復興支援の体験から、ソーシャル PM にはデザイン思考のアプローチが適することがわかり、基本の枠組みはできたところで、今後内容の詳細を詰める段階です。この開発作業そのものが、デザイン思考のプロセスになっていることにお気づきでしょうか。上記「A1」の記事に説明したように全体で 6 回のシリーズになります。ぜひ全体を通してご参加ください。

②は上記「B1」の記事にご案内した会議です。第 3 回の今回は、当研究会のメンバーが講演、運営など多岐にわたって参加します。

これら二つのテーマに取り組んでいるメンバーは、大いに張り切っています。ご期待ください。

このニューズレターは社会課題解決の志を同じくするプロジェクト・マネジャーのコミュニティ醸成のために関係団体のイベントや人材募集の情報連携をいたします。

毎月 15 日の発行を目標にしますので、掲載希望のニュースをお寄せください。

発行者： PMI 日本支部 ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

責任者： 研究会代表 高橋 正憲

=====